

文学教材の読解における授業形態の工夫

～「ジクソー学習」を用いて～

尾道市立因北小学校 重友葉月

1 実践の趣旨

本単元は、学習指導要領における第5学年及び第6学年の「C読むこと」の目標「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」を受けて設定されている。

本教材は、主人公「ヤミーナ」が体験する「ある朝」から「翌朝」までの一日のできごとが描かれている。ヤミーナの心の動きを追っていくことで、ヤミーナの考えの変容に気づき、動物や自然と人間との関わりについて考えさせられる作品である。本作品は生活のために狩猟している民族の娘であるヤミーナが、憧れを抱いた「ハンター」の実態を知っていくことで、自分の理想と動物たちのおかれている現実との差に気づき、自分の考えを変えていくという話になっている。児童には物語を読み進めていく中で、命の尊さや人間の身勝手な行動かにより動物たちの環境を壊している現実があることについて知り、自分の思いを持ってほしいと考えた。

今回は、2C3T（2つのクラスを解体して3つのグループにして行う）の授業形態でこの授業を行うことにした。2C3Tで行うことは、利点として、①他のクラスの友達と交流することができる。②自分達で授業を進めていく形なので、自分の意見を持つ必然性ができる。③自分達で課題を持ち進めることで学習意欲や責任感が生まれる。ことがあげられる。この利点を活用し、今回の「ちかい」の読みとりを進めていった。

児童の実態としては、「だいじょうぶ だいじょうぶ」の学習で、「朗読会を開こう」という活動目標を設定し、登場人物の気持ちや場面の様子を表現の工夫を考えながら声に出して読むことにより、作品を読む力をつけていった。対話を深めるためには、児童一人一人が自分の意見や思いを持って話し合いをすることが大切である。そのために、書きこみをして自分の意見を持って話し合いをすることが大切である。そして、グループ対話では、班長を中心にグループで出た意見の相違点を叙述に即して検証し、どのように読むかを考えていった。そして、登場人物に同化しながら読み進めていった。しかし、1つ1つの活動のめあてを明確にもって取り組むことが十分にできているとはいえない。また、対話の場面などでは、相手を意識した声の大きさにも問題がある。

2 実践の概要

(1) 単元名 強く心に残ったことを考えながら読もう 教材「ちかい」（東京書籍 5年上）

(2) 単元の目標

- 登場人物の心情の変化について読みとることができる。
- 表現にいかせる言葉を登場人物の心情や場面についての描写から読みとり、文章に書くことができる。

(3) 手だて

活動目標として、『読書のまど』でおすすめの本を紹介しよう。」という活動目標を設定し、本文で読み取ったことをもとに、「人間と動物」「人間と自然」などのテーマを持たせ、「ブックカバー」「解説ノート」「ブックトーク」を通してまとめていった。

全文を読んだ後、「時」「登場人物」「出来事・人物の行動や会話」の観点で再話シートにまとめさせる。そして、構造分析シートを使って、物語の展開やクライマックスなどを読み取らせていく。叙述に即した根拠を説明させていくことで、物語の内容全体をつかませる。場面ごとの読み取りでは、ヤミーナの人柄や性格・考えが変わったきっかけを、根拠を明確にして話し合わせていく。そのために、ワークシートへの書き込みをさせ、自分の考えを持たせていく。グループ対話を通してお互いの意見を出し合い交流していく。最後の場面では、ヤミーナのハンターに対する心情の変化

を中心にまとめさせ、主題にせまっていた。

読み取り学習後、「ブックカバーコース」「解説ノートコース」「ブックトークコース」3つのコースに分かれて学習する。最も強く心に残ったことを短い文章やキャッチフレーズにまとめて書かせ、全体で各コースの発表会をする。自分の考えや思いが分かりやすく伝わるように話したり、友達の発表の良いところをとらえながら聞いたりして、作品への読みや感想がどのように深まったかを交流して学習のまとめとする。

【2C3Tジクソー学習の流れ】

(グループⅠ)

(グループⅡ)

(グループⅢ)

I-1 I-2 I-3

II-1 II-2 II-3

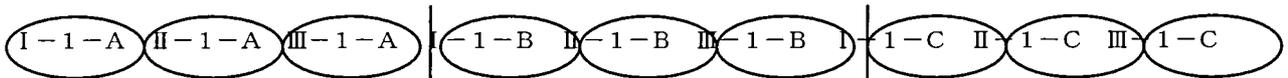
III-1 III-2 III-3

【各コース別学習を行う(二次より)】

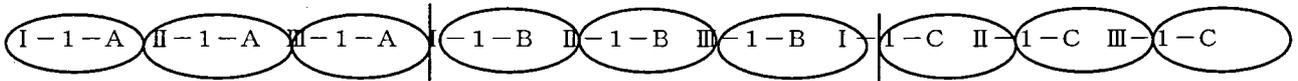
(Aコース:ヤミーナ)

(Bコース:小ゾウ)

(Cコース:情景)



【I II IIIグループに戻っての対話】



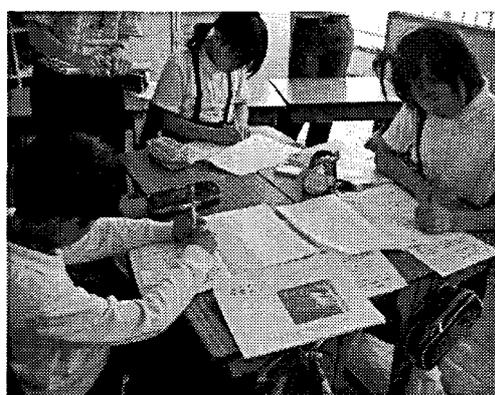
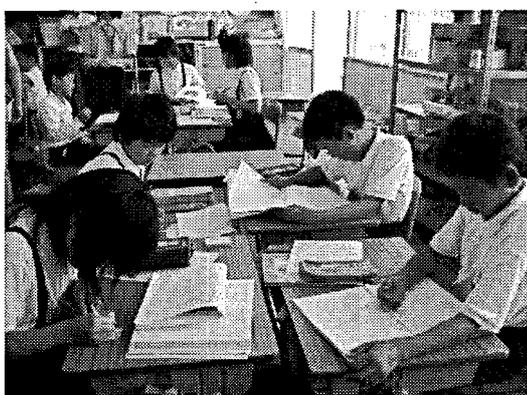
(4) 指導計画(全8時間)

次	学習活動	文学体験	言語技術	評価		
				観点	評価規準	方法
一次 (2)	①「ちかい」の全文を読み、物語の再話と構造分析であらすじをつかむ。	参加	再話 構造分析	関 書	物語の大まかなあらすじをつかんでいる。 物語のあらすじを理解し、初発の感想を持っている	観察 再話シート
	②学習計画を立てる。	問答	問答	関	学習の流れが分かる。	観察
二次 (3)	③前半部分を読み、登場人物の心情や相互関係をとらえる。	同化 対象化	問答 視点を変える	関 読	自分の考えを広げたり深めたりするために、物語を進んで読もうとしている。 登場人物の心情の変化や場面の情景を叙述に即して想像し、自分の考えを持っている。	観察 発言 ワークシート
	④後半部分を読み、登場人物の心情や相互関係を捉える。	同化 対象化	問答 視点を変える	関 読	自分の考えを広げたり深めたりするために、物語を進んで読もうとしている。 登場人物の心情の変化や場面の情景を叙述に即して想像し、自分の考えを持っている。	観察 発言 ワークシート

	⑤一番心に残ったことを短い文章にまとめる。	対象化	問答	書	視点を変えて、描かれている様子や登場人物の心情の変化を書いている。	ワークシート
三次 (2)	⑥⑦ (コース別学習) 課題にそって、表現し、主題に迫る。(本時7/8)	対象化	問答	読 書	登場人物の心情の変化や場面の情景を叙述に即して想像し、自分の考えを持っている。 心に強く残った言葉について自分の言葉でまとめている。	解説ノート ブックカバー ブックトーク
四次 (1)	⑧各コースの交流をする。		問答	話	表現の工夫や登場人物の心情の変化について、他の人と違う点を意識しながら話したり、聞いたりしている。	観察

(5) 授業の様子

この物語の再話を通して、登場人物の相互関係や出来事の順を把握させ、物語の内容全体を捉えさせていった。物語の構造分析ではクライマックスであるヤミーナがハンターにならないとちかったところを子どもたちはすぐにつかむことができた。しかし、ヤミーナがどうしてハンターにならないとちかったのかという問いについては「こわい思いをしたから。」「小ゾウがかわいそうと思ったから。」という初発の感想が多かったので、ヤミーナ日記を書かせながら物語の読み取りを全体対話の中で行っていった。子どもたちは密猟の現状や、ヤミーナの民族について深く知ることにより、そのときの気持ちを考えてヤミーナに同化することができていた。読み取りの最後には、一番強く感じたことを短い文にまとめ、主題にせまることができていた。



3 成果と課題

今回の授業では、読み取りの後、3つのコースに分かれて授業をおこなった。自分の担当は「ブックカバーコース」だったが、対話のめあてを持たせておき、目的意識をもって対話させることができた。キャッチコピーについては、一人ひとりのキャッチコピーがよかったので、まとめずそのまま出させた方がよかったと感じた。また、グループで一つださせるという方法もあった。

全体対話では、3人の教師がそれぞれ同じような流れで授業が進められるよう、毎回授業後に話し合いの時間を持たせたのがよかった。ただ、自分のクラスではない子どもたちと接するというのは、実態把握が難しいところも多いので、担任同志で普段情報交換しておくことも大事だとわかった。

授業形態の工夫については、2クラスを3つのグループに解体して行ったが、その授業形態を効果的に行うためにはしんどい子どもの手だてをどうするかが課題になった。今後の方向としては、習熟度をふまえて子どもにコース選択をさせることも考えていく。

